
あの時、空は青かった

ウエダタカヒサ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの時、空は青かった

【Nコード】

N2059B

【作者名】

ウエダタカヒサ

【あらすじ】

空と青とオレとお前と、あと、生きてるすべてのモノ。なんか空の青さってたまに泣けてる。

Here, there everywhere

お前が

「表」

の時はオレが

「影」

で、オレが

「表」

の時はお前が

「影」

だった。

いつでもそうだった。

オレとお前はいつも一緒だった。

お前といた時のイメージは青。泣けるくらいに空一面に広がる空の青。

お前には今どこであの青を見、何を感じているのだろうか？

あの時も、その時も、どんな時も、空はいつでも青かった。飛行機雲がよきによきと伸びていく。正直なくらい真っ直ぐに。飛行機雲がよきによきと伸びていく。正直なくらい真っ直ぐに。風は凧いである。どこからか、風鈴の音が聞こえる。風は凧

夏。まさに夏。

セミの声に混じってリヴァース・クオモが今にも泣きそうな声で泣き虫ロックをロックしてる。

ステレオからか？CDからか？

どこからかは分からないけど、確かにロックしてるんだ。だって現にオレの部屋はロックしてる。

セミもロックしてる。太陽なんてパンクだ。でも、空はなんとなくブルースだ。オレの部屋には只今ロックが充満してるが、明日になればタブン、バイト先のロッカーに置いてあるジープンを持って帰ってくるから、ワンルームのこの部屋はバイト先独特の嫌な臭いに充満する。

持って帰りたくはないが、仕方ない。なんせ一週間働き詰めで嫌な臭いが染み込んだジープンだ。

四日を過ぎればどうだろう？カナリの悪臭だ。

油の臭いと、ガスの臭いと、生ゴミの臭いと、あとはバイト先の臭い。

家にもそれぞれの臭いがあるように、バイトにもその場所場所によってそれぞれ臭いがあると思う。

女の子の家。一人暮らしなら必ずいい匂いがするもんだ。実家であってもタブン、いい匂いがするはず。

オレの家は明日にはジープンによってバイト先の臭いに支配されるはずだ。

そんなコトはどうでもいい。それより、ソラニンの続きが気になる。

一卷しか本屋に売ってなかった。この街にはヴィレヴァンなんてないからこの街1番の（と言っても都会では街の本屋さん程度の）本屋に行くしかないのだろうか。
わざわざこのクソ暑い中、外に出るのも嫌だから、明日のバイト前でもいいと自分を説き伏せた。

…暑い。

クーラー入れようかなー。
かき氷喰いたいなー。

明日からまた一週間バイトかよ…。

ってコトは今日ジーパン洗うしかねえじゃねえか。

部屋に臭いが…。

めんどくせえ…。

でも、行くしかねえか。

じゃあ、ウィーザーが終わったら…ってもう、PINK TRIA
NGLEじゃねえか…。

とりあえず寝るべ。

網戸から涼やかな風が吹いてもう、陽が赤くなりかけていた。

ウィーザーはとっくに終わってた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2059b/>

あの時、空は青かった

2010年10月14日14時15分発行